

《履修上の留意事項》遠隔授業のみで実施

《担当者名》 今井智子 太田亨 下村敦司 中川賀嗣 榊原健一 田村至 橋本竜作 福田真二 黒崎芳子
小林健史 前田秀彦 柳田早織 飯泉智子 葛西聡子

【概 要】

基礎および専門科目で身につけた知識・技術を統合し、臨床実習指導者の指示の下で各種障害に対する言語聴覚療法を実習し、言語聴覚療法全般および医療人としての態度・行動について学ぶ。

【学習目標】

言語聴覚士としての適切な態度と行動をとりながら、これまで習得した知識と技術を実際の施設で活用するために、一連の言語聴覚療法を臨床実習指導者の指示のもと実施することができる。

1. 患者が抱える音声、言語、聴覚、摂食・嚥下に関する問題の解決を図るために、一連の診療（補助）行為・リハビリテーション医療の流れを理解できる。
2. 患者の評価・訓練にあたり、必要な情報を収集し、それらと音声、言語、聴覚、摂食・嚥下の問題との関連性を考えることができる。
3. 患者の特性に適った評価方法を選択し、それを適切に実施し、結果の解釈ができる。
4. 患者の評価と方針に基づいて、訓練・指導の提案と内容の実施ができる。
5. 必要かつ適切な記録と報告（口頭および書面）ができる。
6. 医療職業人として適切な態度と行動ができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	臨床観察	臨床観察は、評価と治療にとって基本的な技術である。実習では、担当患者だけでなく、多様な患者を観察する機会を多く持つ。 観察した事象は、見たまま・聞いたままに適切な用語を用いて記録をする。観察した事象（事実）と解釈（意見）を区別して記載する。	全担当教員
	評価・訓練に関する実習	【評価】検査の目的を理解した上で、適切な評価方法を選択し、実施する。評価結果を適切に解釈し、問題点を把握する。 【訓練】問題点に沿った解決方法を考え、適切な目標設定をする。訓練の目的や一般的適応を理解した上で、適切な訓練方法を提案し、十分な準備の上で実施する。患者の反応や訓練経過から問題点を挙げ、治療効果や工夫の必要性について説明する。	全担当教員
	症例研究・評価報告の作成	適切な用語で記録をする。誤字・脱字がなく簡潔かつ適切に文章表現をする。個人情報の記載について、匿名性などに留意した対応をする。	全担当教員

【評価方法】

基礎領域、臨床領域共にレポート（100％）

臨床領域は、各領域の症例報告書作成を行う。

【備 考】

教科書：「臨床実習マニュアル」 北海道医療大学言語聴覚療法学科 2020年度版

参考書：適宜、紹介する。

その他：基礎実習の単位を修得していることが必要である。

【学習の準備】

「臨床実習マニュアル」における「課題の進め方」を理解し、実習の準備を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）人は人の中でこそ人として生きていけます。お互いがお互いの命や生きることの意味を大切に思える心と感性、そのため

に必要な幅広い教養、そしてそれを対象者と共有することのできるコミュニケーションを身につけます。

（DP2）近代医療は“チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに“チーム医療力”が病院・施設などの“臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。